

和文：生物資源を活用した地域創生研究部会

英文：Glocal biotechnology Forum

日本は南北に長く、気候や風土、文化的、経済的背景の違いによって各地域に特有の生物資源があり、その多様さは他国を圧倒しており、伝統的な醸造・醸酵技術をはじめとし幅広い生き物を対象とした食品やその関連技術が発展してきた背景がある。

生物工学は、醸造・醸酵技術を核に、微生物、植物、動物細胞を活用したものづくり、全ゲノム解析、次世代シークエンシング技術、バイオインフォマティックスによる生物資源の活用、さらに遺伝子工学やタンパク質工学を活用したバイオテクノロジーを駆使した食品、医薬品、環境問題やエネルギー問題の解決など、地球規模で取り組んでいる。地域の課題を地方に留めず、地域の枠や分野の枠を越えて共有し、生物工学を基盤として地球規模で考えることで新しいイノベーションにつながると考えられる。

本研究部会では、地球規模で考え、地域に生かし、そしてグローバルに発信するという、グローバルローカルな発想でバイオテクノロジーを活用する、「グローカルバイオ」で大学、公的機関の研究者、企業との間で、課題の共有、技術情報の交換を行うネットワークを作り、社会への発信していく活動を行う。

- ・課題のデータベース化と共有
- ・研究者の目利き
- ・課題とシーズの棚卸し
- ・シーズのネットワーク構築

情報集約

- 地域の課題
- ・経済
 - ・医療
 - ・教育
 - ・環境問題
 - ・産業技術

生物工学分野の研究者、技術者の視点
で付加価値を付けて情報発信

情報発信

「地方と地方」「世界と日本」
の間でネットワーク構築

- 地方独自のシーズ
- ・地域の生物資源
 - ・地域のバイオ技術
 - ・地域のバイオ産業
 - ・地域の人

